平成30年度　上田市立丸子中学校　自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿（中長期的目標）	
みずから学ぶ ともに創る たくましく生きる	○　主体的に学び続ける生徒 ○　仲間や先生と協働できる生徒 ○　人生の壁を乗り越えるたくましい生徒	
	今年度の重点目標	
	1	授業評価を活かした日常の授業改善
	2	あいさつの行き交う規律正しい楽しい学校生活の実現
	3	伝統の清掃と合唱の充実と地域貢献活動による地域との関わり

総合評価
○、生徒の主体的な学びをめざして、ねらいを明確にし、振り返りを大切にした授業づくりを進めた。授業には落ち着いて、友と関わりながら取り組める生徒たちであるが、課題意識をもち自ら学ぶ姿勢はもう一歩のところである。教師側の授業づくりもさらに工夫が必要と思われる。全体的に落ち着いた学校生活を送ることができ、部活動や生徒会活動では力を合わせたり、努力しようとしたりする生徒の良い面が見られる。しかし、減り始めてきた不登校傾向の生徒の数が再び増え始めてきた。課題を抱えている生徒には寄り添いながら支援を継続するとともに、家庭への支援も必要と考えている。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教師の評価と生徒からの評価のズレに注目して、各自の授業についての振り返りを行った。		○			相互授業観察や、生徒の側からの授業の振り返りを進めたい。
時間のけじめが向上し、落ち着いた学校生活を送ることができた。	○				さらに、生徒が自主的に交わすあいさつを目指していきたい。
地域学習との連携で地域貢献の意識が高まった。三本柱として定着している。	○				生徒会の活動との連携をはかり、地域と成果を共有できる機会をとりたい。

分野		評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学習指導	①ねらいの提示とその達成の見とどけ	授業のはじめにねらいがわかり、おわりでそのねらいが達成できているか。	ねらいの提示についてはほぼ全ての授業でなされている。ねらいの達成については時間配分が課題である。		○			ねらいを明確にした単元設定をし、生徒とゴールを共有して学習活動を展開していきたい。
		②友と関わりのある場面設定	グループやペア学習を通じて学ぶ力が高まっているか。	年3回の実践ウィークを通して、学び合いの成立する授業を目指した授業改善を進めることができた。	○				意図的な場面の設定から、気軽に聞き合い教え合える関係づくりを進めたい。
		③家庭学習の充実・向上	宿題STや家庭学習ノートを生かし、意欲的に家庭学習に取り組めているか。	全校一斉の宿題スタートタイムが定着し、生徒の意欲も高まっている。授業や学校生活の落ち着きにもつながっている。		○			定められた宿題と、自分で設定する宿題を意識的に組み合わせた計画がたてられるような指導をしたい。
	生徒指導	④規律正しい健康的な学校生活	あいさつをして、学校のルールを守って生活しているか。	生徒会活動でも取り組み、おおむね決まりよい生活ができている。落ち着いた雰囲気を継続していきたい。	○				教師による受容的な指導が成果を挙げている。生徒が理解して取り組む姿を大事にしたい。
	人権	⑤安心できる学校生活	差別・偏見を見抜き、互いを認め合いながら学校生活に取り組めているか。	CAPワークや人権同和教育、教科や活動での支援や評価により、人間関係の改善がみられている。		○			人権同和教育については、差別を許さない心を育て、学級集団づくりにつなげていきたい。
	特別活動	⑥生徒会の充実	丸子中伝統の合唱と清掃に自ら進んで取り組めているか。	合唱・清掃・地域貢献を三本柱として、ただ継続するだけでなく、活動の意義を再確認しながら活動することができた。	○				伝統を大事にしつつ、新たな活動の導入や、全員参加場面の設定など、生徒が主体となる場面を増やす。
学校運営	地域との連携	⑦地域への貢献	地域のニーズに応じた地域貢献活動を考え実施でき、地域の魅力を高められたか。	総合的な学習の時間における地域学習が定着し、地域への関心意欲は高まっている。	○				してあげるという一方通行の意識から、相互に関係を作りともに成長していくことを大事にしたい。
		⑧情報発信や地域との活動	保護者や地域の方々におたよりやHP等により、積極的な情報発信ができ、地域と関わりが持てたか。	定期的なHPの更新等で情報発信ができた。地域の方を講師に迎える活動が増え、生徒も校外で活動することができた。		○			学習に関わることだけでなく会議や活動での校舎利用など、学校に訪問しやすい環境を作りたい。

○　評価基準　A・・・達成できた　B・・・おおむね達成できた　C・・・やや達成できなかった　D・・・達成できなかった